

ひかり野

Saga
University
Library
Bulletin

No.45
October 2021



目次

CONTENTS

時空を超える場所 館長	1
読書推進企画「Go To Readキャンペーン」	2
オリエンテーション・講習会／Web学生選書ツアー	2
新型コロナウイルス感染防止対策	3
防災研修	3
図書館ホームページ	4
貴重書デジタルアーカイブ	5
機関リポジトリ	5
ディスカバリーサービスの導入	6
貴重資料展示(図書館月間2020)	6
受入資料紹介	7
人事異動	7
図書館統計	8
歴代館長・副館長	12
図書館運営体制	12
館内マップ、各係の紹介	13
図書館日誌(行事・会議・研修等)	14
貴重書紹介 小城鍋島文庫蔵『旧約全書・新約全書』	16



時空を超える場所

館長 石丸 幹 二

図書館長を拝命してから数ヶ月が経ちました。未だ業務に不慣れな日々ですが、図書館については考えることが多くなりました。昨年度、新型コロナウイルスの猛威により社会生活が一変しましたが、附属図書館も例外ではなく、感染症対策のため多くの入館制限を実施することとなり、利用者の皆様には大変不自由をおかけしました。今年度、4月1日からは開館時間を通常(附属図書館利用規程の通り)に戻し、対面式授業を中心としたカリキュラムがスタートするとともに、来館者数も昨年度後学期の10倍程度(400人/日以上)と順調に回復しておりました。しかしながら4月半ばに学内でコロナ感染のクラスターが発生したことにより、キャンパスは一週間程度の入構制限、図書館も臨時休館になりました。その後は、現在、図書館は開館中ですが、グループ学習室の利用、学外の方の入館等は制限されています。非常に残念

ですが、コロナが収束し、学生や教職員の皆様が自由に図書館を利用できるようになるには、まだまだ時間がかかりそうです。

図書館に来ると気持ちがワクワクすると感じる人は多いのではないのでしょうか? 「フィトンチッド、phyton (植物)+cide (殺菌)」という言葉があります。植物が出す揮発性の殺菌成分で、植物自身を守るものですが、動物や人間にとっては消臭、抗酸化作用だけでなくリラックス効果も期待されています。森の中を歩くとリラックスして健康になる、いわゆる森林浴効果の成分として知られています。図書館の書物にも、ある意味それに似た感化力があります。自宅の書斎を家庭菜園とするなら、図書館は森といったところでしょうか。書棚を眺めているだけで刺激を受けて頭が良くなる(気がする)。書物を開いて、情報が入ってくると、頭の中は時空を超えて自由になります。書物と対峙することで高揚したり、リラックスしたり、結果として、気持ちはいつまでも若く健康になれる場所なら理想的です。

随分昔の話ですが、私は大学生の頃、薬学系の研究室に配属され、天然物化学の論文をコピーする日々に明け暮れました。化学系の初期の論文はドイツ語で書かれたものも多く、論文を見つけるたびに科学に国境はないことを肌で感じました。当時の古い論文は、地下倉庫のような書庫に置かれていましたが、1900年代前半の海外の学術論文を読みながら、科学創成期に活躍した先人達の、手作り感溢れる研究に感心したものです。目的の論文を探して、集めて、コピー機で印刷するのに半日かかりでしたが、苦労して時間がかかった分、その書庫の厳かな空気、蛍光灯の光、古びた雑誌など、身にしみたものは記憶から消えることはありません。

時代とともに研究の様式が変化し、必要な情報はインターネットで検索すれば手に入ります。最新研究への窓口は、パソコンの世界になりました。図書館の機能も変化し、多様化する学術情報の管理と提供手段の整備が求められています。デジタル情報をいつでも効果的に活用できる環境が、図書館の新しい魅力の一つです。しかし、図書館の機能として、静かに勉強できる空間を提供することの重要性は変わりません。書架の書物を利用する、しないに関わらず、誰もが自由に勉強のできる場所は貴重です。コロナ禍以前の定期試験期間中には、試験勉強する学生で図書館はいつも一杯になり、一種異様な熱気に包まれていました。コロナが収束すれば、また自然と学生の皆さんが図書館に集うようになると信じています。利用する学術情報(紙媒体と電子媒体)は、益々多様化していきませんが、その時代時代の学習スタイルに対応することで、図書館がいつも気持ちよく時を過ごせる場所、生涯の記憶に残るような場所であることを願っています。これからも、大学の貴重な学びの場である図書館を利用していただくとともに、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

読書推進企画「Go To Readキャンペーン」

10月からは新型コロナウイルス感染対策のための本庄キャンパスへの学生の入構制限が緩和されました。入構制限期間中は多くの学生が遠隔授業を受講しており、対面授業の必要のある一部の学生のみが入構を許可されていましたが、図書館利用のための入構も認められるようになりました。キャンパスに人が戻ってきたこの時期に本館では読書推進企画として「Go To Readキャンペーン」を実施しました。世間ではコロナで冷え込んだ各業界への需要を喚起するための各Go To TravelやGo To イートなどのキャンペーンが話題となりましたが、図書館も臨時休館や大学への入構制限で減少した利用者を引き戻すためにこの企画を立てました。カウンターでポイントカードを配布し、貸出ごとに1ポイントをつけ3ポイント溜まったら景品を贈呈するものです。参加者が多く、68名の方がポイントをためて景品を受け取りました。景品は図書館では不要となった雑誌の付録品などを活用しました。



景品展示の様子

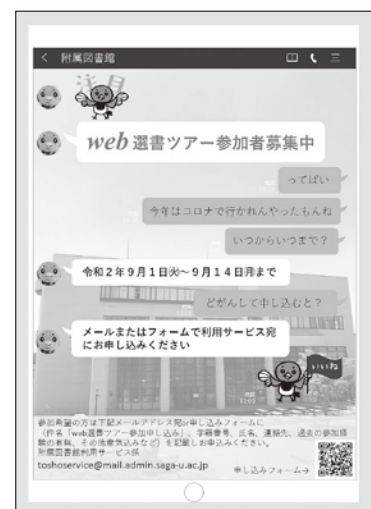


「Go To Readキャンペーン」ポスター

オリエンテーション・講習会 / Web学生選書ツアー

令和2年3月に新型コロナウイルスの佐賀県内における感染者が発生して以降、約3ヶ月間、図書館は臨時休館となりました。このため例年同時期に行う新入生オリエンテーションや中級の文献検索講習会は実施できず、参考資料のウェブ上での配布やオンラインでの講習で代替しました。

例年夏季休業期に実施している選書ツアー（希望する学生を募って書店へ赴いて選書するイベント）も実施することができなかったため代わりに“Web選書ツアー”を行いました。希望者を募るのは例年と同じですが、インターネット上の情報源から選書してもらい、ウェブ上に設けた専用フォームから図書の情報を入力してもらうというものです。16名の学生が参加し184冊の図書を購入しました。



Web選書ツアー参加者募集ポスター

新型コロナ感染防止対策

令和2年3月に佐賀県内で初めての新型コロナウイルス感染の陽性者が発生した翌日以降、図書館も感染防止対策を続けてきました。6月中旬までの3ヶ月間は臨時休館せざるを得ませんでした。6月15日からは平日の夕方までに限定しての開館を再開しました。佐賀大学では感染拡大防止のための活動制限指針を掲げ、そのときどきの国や県の感染状況に応じて活動指針レベルを設定しています。開館再開にあたってはこの指針に対応した図書館のコロナ対策の具体的な方法や開館の条件を定めました。

館内では密を避けるためグループ学習施設を封鎖し、閲覧席の椅子を間引きして席と席の間にはアクリル板を設置しました。常時換気を行い、閉館時には消毒作業を行うなどの対応をとりました。また利用者には学生証を用いて入退館記録を取ることや手指消毒、滞在時間を限定してもらうなど協力いただきました。

例年、年度の初めごろに行う新入生向けの図書館オリエンテーションや高学年向けの文献検索講習会なども対面での実施ができなかったため、参考資料のウェブ上での配布やオンラインでの講習で代替しました。

また、文献データベースなどの各種学術電子リソースの中には学外からのアクセスに対応していないものもありますが、それらのうちいくつかの提供元の配慮により、特別に学外アクセス手段を提供いただきました。

※令和3年6月現在、開館スケジュールは土日祝日を含めて通常に戻りましたが、館内の感染対策は引き続き行っています。



カウンターにもアクリル板を設置



入退館口にはICカードリーダーを設置

防災研修

例年図書館では火災を想定した訓練を実施していましたが、令和2年度は、国立大学図書館協会地区協会助成研修として開催されたオンラインセミナー「図書館における災害対応」に参加し、被災時対応について図上訓練により、災害リスクを可視化・共有する方法を学びました。

図書館ホームページ

令和3年3月に図書館ホームページをリニューアルしました。それまでのホームページは平成24年から9年ほど運用していましたが、デザインを一新し、新しいウェブ技術を取り入れてユーザーにとってはより利便性が高く、職員にとっては管理のしやすいウェブサイトを作成しました。またスマートフォンやタブレット端末にも対応できるマルチデバイス対応としました。

佐賀大学附属図書館：https://www.lib.saga-u.ac.jp/



新しくなった図書館ホームページ(右はスマートフォン用)

貴重書デジタルアーカイブ

佐賀大学附属図書館貴重書デジタルアーカイブをリニューアル公開しました。これまでは貴重書コレクションとして佐賀大学附属図書館が所蔵する古典籍などの貴重資料のデジタル画像を配信しておりましたが、デジタル資料の流通が世界的に盛んになっている現在の状況を踏まえ、これまでは比較的単純に画像を掲載していたのを、IIIF (International Image Interoperability Framework) という国際的な標準化の枠組みに合った形で表示させるように変更しました。これにより、直感的な操作で画像の細かな拡大・縮小表示をすることができるようになりました。またトップページを始めとするユーザーインターフェースも一新し、より幅広い方に簡単に貴重書の世界を楽しんでいただけるようになりました。貴重書の画像はすべてクリエイティブ・コモンズ・ライセンスのCC BY-NC-SA 4.0で提供しており、画像の二次利用も可能です。

クリエイティブ・コモンズ・ライセンス：<https://creativecommons.jp/licenses/>

佐賀大学附属図書館貴重書デジタルアーカイブ：
<https://www.dl.saga-u.ac.jp/>



書誌表示画面



画像表示画面



トップページ

機関リポジトリ

佐賀大学機関リポジトリをリニューアルしました。機関リポジトリとは大学や研究機関がその知的生産物を電子的に集積し保存、公開するシステムです。これまでの機関リポジトリはDSpaceというソフトウェアをベースにして構築したものでしたが、国立情報学研究所が運用し、環境を提供している共用リポジトリサービスであるJAIRO Cloudに移行しました。全国の大学等600を超える機関がJAIRO Cloudを利用してリポジトリを公開しています。今後も新しい機関リポジトリ上で、本学発行の紀要、博士論文や雑誌掲載論文等の知的生産物を公開していきます。

佐賀大学機関リポジトリ：<https://saga-u.repo.nii.ac.jp/>

ディスカバリーサービスの導入

ホームページ等のウェブサービスのリニューアルと同時に、ディスカバリーサービスを初めて導入しました。ディスカバリーサービスはOPAC(蔵書検索システム)や文献データベースなどのウェブ上の様々な学術情報を統合的に検索するシステムです。一般的な検索エンジンと異なり、佐賀大学が契約する有償のデータベースなども検索対象であり、学術情報検索に特化したサービスです。佐賀大学ではサンメディア社のSummonというサービスを導入し、「佐賀大学まとめて検索」という愛称でリリースしました。同時に360Linkという文献検索の結果から必要な論文の入手方法を案内するシステムも導入しました。



佐賀大学まとめて検索(Summon)

貴重資料展示(図書館月間2020)

毎年11月を図書館月間と称し、資料の展示や講演会を開催しています。令和2年度は講演会を開催せず当館所蔵の貴重書コレクション「大内文庫」の展示のみを本館エントランスホールで行いました。大内文庫は鹿児島大学名誉教授であった大内初夫氏収集の江戸～明治期にかけての俳諧書約300点をはじめとするコレクションです。これらの半数近くが九州に関係する俳書で、九州に焦点を定めた全国唯一の俳諧コレクションと言えます。これらの俳書を見ることで俳諧の近世中・後期から明治に至る展開をたどることができます。コロナ対策のため学外の方には来館いただけなかったため、展示資料の写真と情報を記載した一覧をウェブで公開しました。11月14日(土)開催の第9回佐賀大学ホームカミングデーの際は、佐賀大学OBの方々が来館され展示をご覧になっていました。



展示風景



ポスター

受入資料紹介

学生用図書

令和2年度は、以下のとおり図書を購入しました。

教員推薦図書1,250冊、学生希望図書238冊、図書館推薦図書2,222冊、継続購入図書529冊

寄贈図書

・教育学部准教授 成松美枝

ジェームズ・カマーの学校開発プログラム研究：米国都市における貧困家庭の子どもの学習支援の
取り組み / 藤岡恭子著

・有田キャンパス事務員 山田文弘

器の教科書=ALL ABOUT UTSUWA (他1点)

・片岡日龍雄

多久家文書にみる『葉隠』の時代 / 片倉日龍雄著

・永井 修

短冊 鎌田梅石画

(敬称略・順不同)

人事異動

(令和2年4月2日～令和3年4月1日)

異動区分	発令年月日	氏名	異動後	異動前
兼務命	2.5.1	森 暁子	情報図書館課副課長 情報図書館課係長 (医学分館主担当)	情報図書館課副課長
免	"	宮原茂幸	情報図書館課事務員	情報図書館課係長 (医学分館主担当)
兼務免	2.10.1	浅岡宏信	情報図書館課長	総務部情報管理課長
配置換	2.10.1	藤吉 誠	情報図書館課主任 (医学分館担当)	医学部経営管理課主任
併任	3.4.1	石丸 幹二	附属図書館長	
併任解除	"	大島 一里		附属図書館長
昇任	"	藤吉 誠	情報図書館課係長 (医学分館主担当)	情報図書館課主任
配置換	"	疋田 恵介	情報図書館課係長 (利用サービス主担当)	情報図書館課係長心得 (利用サービス主担当)
兼務免	"	森 暁子	情報図書館課副課長	情報図書館課副課長 情報図書館課係長 (医学分館主担当)

図書館統計

《令和3(2021)年3月31日現在》

基盤統計

蔵書冊数

(冊)

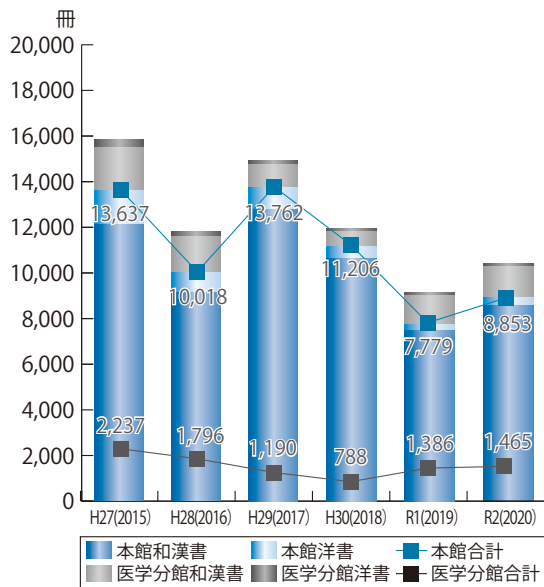
	和漢書	洋書	合計
本館	403,794	166,545	570,339
医学分館	69,351	44,412	113,763
合計	473,145	210,957	684,102

雑誌所蔵種類数

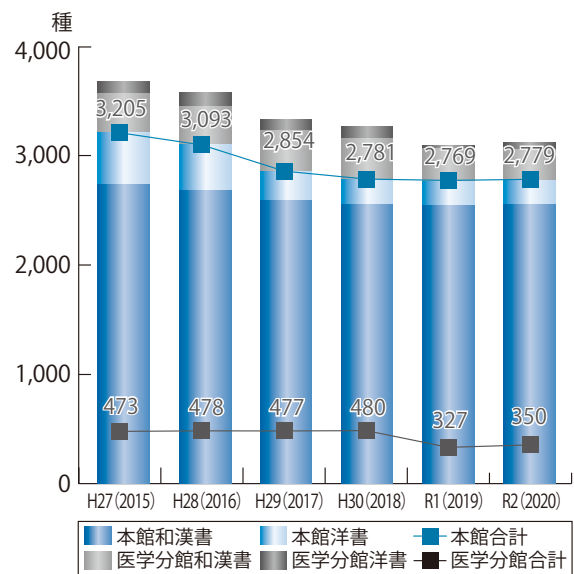
(種)

	和漢書	洋書	合計
本館	6,544	2,977	9,521
医学分館	1,243	1,121	2,364
合計	7,787	4,098	11,885

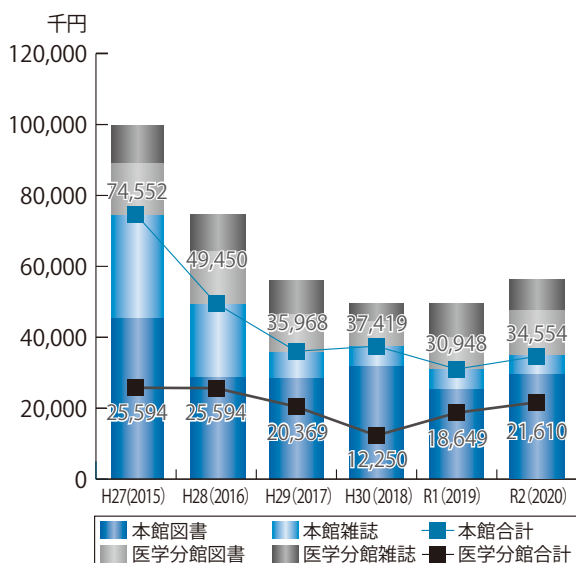
図書受入冊数



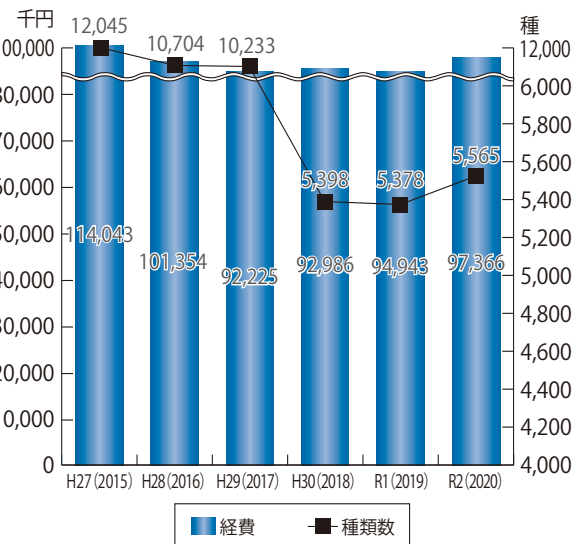
雑誌受入種類数



図書館資料費



電子ジャーナル経費と種類数



サービス統計

開館日数

〈令和2(2020)年度〉(日)

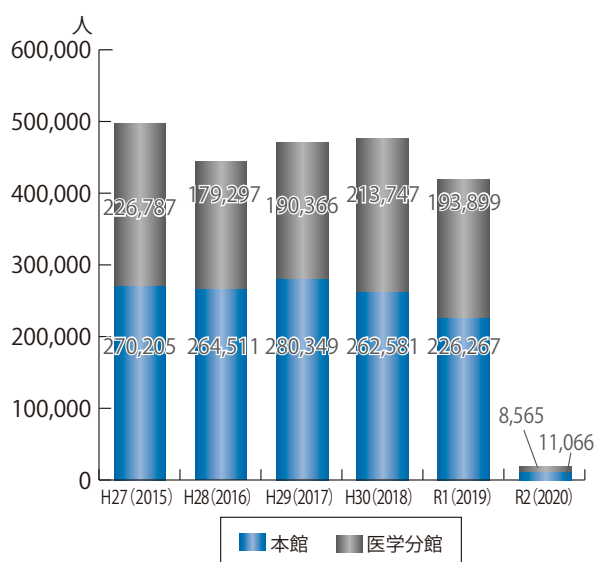
	本館	医学分館
平日	188	179
土・日・祝日	0	0
合計	188	179

利用対象者数

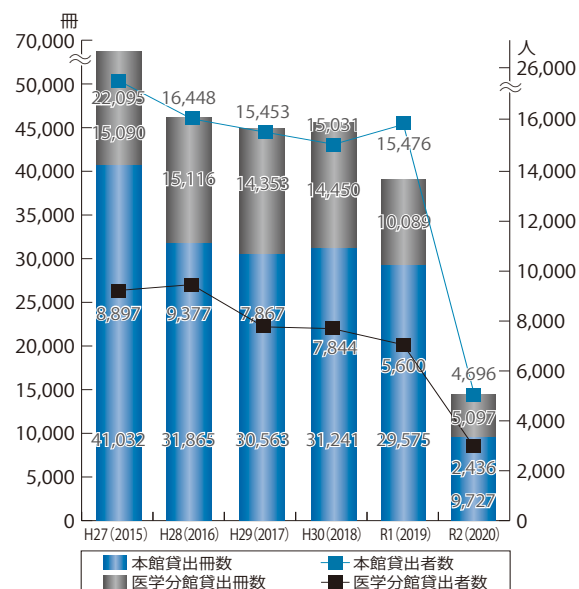
〈令和2(2020)年5月1日現在〉(人)

	合計
学生	6,647
教職員	2,071
合計	8,718

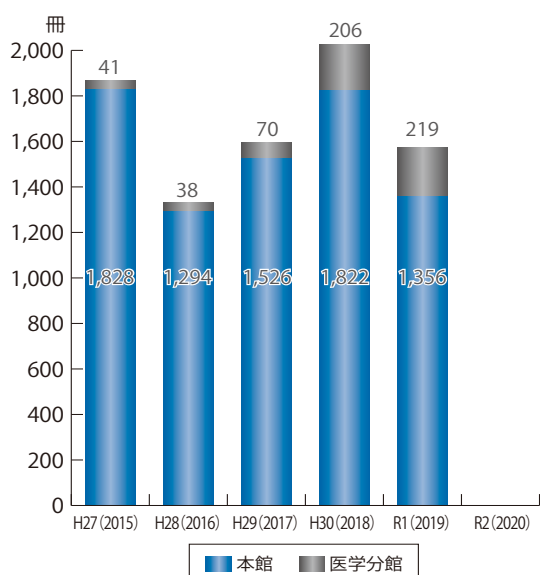
入館者数



貸出冊数と貸出者数



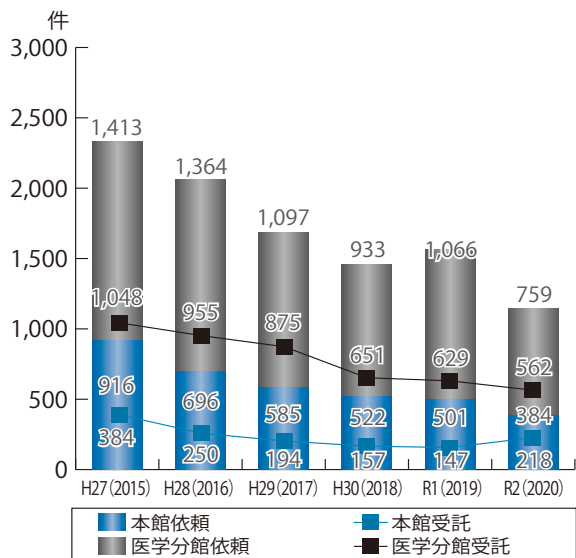
一般市民への貸出冊数



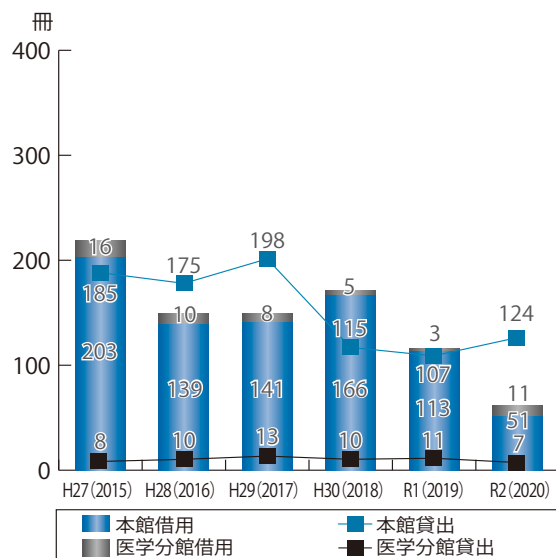
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

- ・令和2年3月16日～令和2年6月14日(臨時休館)
- ・令和2年6月15日～令和3年3月31日
平日夜間、土日祝日を除き開館を再開、
学外者利用制限

文献複写件数



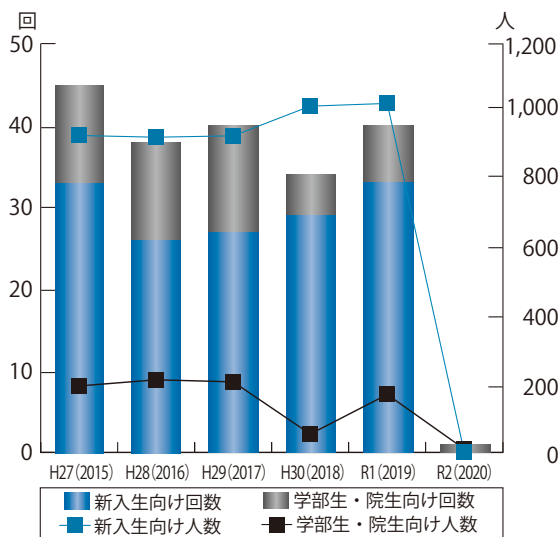
相互貸借冊数



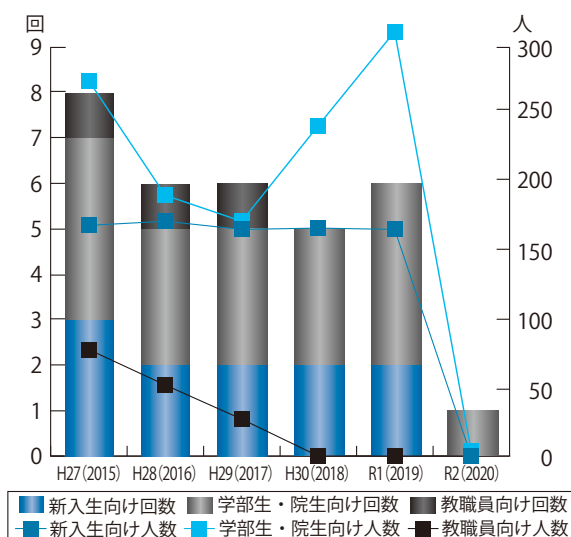
図書館オリエンテーション・講習会

			H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
本館	新入生向け	回数	33	26	27	29	33	0
		人数	929	924	928	1,015	1,023	0
	学部生・院生向け	回数	12	12	13	5	7	1
		人数	195	213	207	54	170	10
医学分館	新入生向け	回数	3	2	2	2	2	0
		人数	169	172	166	167	166	0
	学部生・院生向け	回数	4	3	3	3	4	1
		人数	275	191	172	242	311	4
	教職員向け	回数	1	1	1	0	0	0
		人数	78	52	27	0	0	0
本館	参加総数		1,124	1,137	1,135	1,069	1,193	10
医学分館	参加総数		522	415	365	409	477	4
参加総数(合計)			1,646	1,552	1,500	1,478	1,670	14

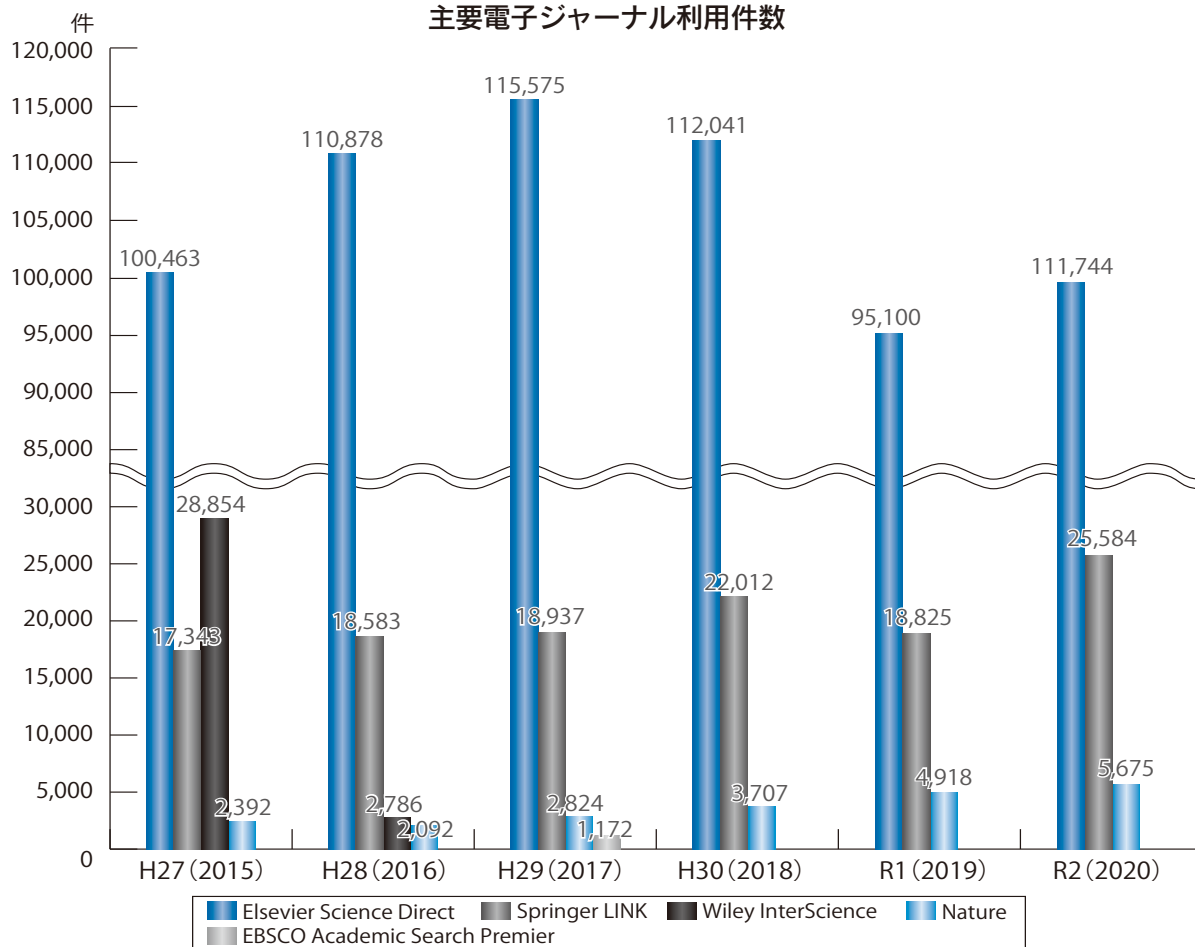
本館



医学分館



主要電子ジャーナル利用件数



・ Wiley InterScience は H27(2015) まで ・ EBSCO(Academic Search Premier) は H28(2016) から ・ EBSCOはH30から中止

文献データベース利用件数

	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
Scopus	13,305 (33,772)	12,011 (33,922)	10,413 (33,136)	10,506 (28,737)	(26,458)	(25,331)
間 蔵	781	730	1,035	1,720	1,239	412
ヨミダス歴史館	(892)	(453)	(918)	(3,287)	(2,184)	(970)
日経テレコン	(285,606)	(147,244)	(285,718)	(201,356)	(78,241)	(53,382)
日経BP記事検索	(6,748)	(5,623)	(5,624)	(3,931)	(2,393)	(1,766)
ジャパンナレッジ	1,030	647 (4,314)	791 (4,760)	626 (3,710)	549 (2,966)	807 (5,386)
UpToDate	(2,298)	(2,642)	(4,416)	(3,414)	(3,355)	(3,333)
メディカルオンライン	(24,963)	(26,787)	(25,159)	(29,208)	(27,374)	(23,345)
医中誌Web	(66,889)	(64,202)	(51,640)	(61,528)	(63,226)	(36,104)

* 括弧内は検索回数または本文利用回数

歴代館長・副館長

歴代館長(統合後) ※平成15年10月1日 佐賀医科大学と統合

氏名	所属部局	期間	年	月
宮島 敬一	経済学部	平15.10.1～ 平16.3.31	0	6
小倉 幸雄	理工学部	平16.4.1～ 平18.3.31	2	0
高崎 洋三	医学部	平18.4.1～ 平20.3.31	2	0
相澤 照明	文化教育学部	平20.4.1～ 平22.3.31	2	0
稲岡 司	農学部	平22.4.1～ 平26.3.31	4	0
富田 義典	経済学部	平26.4.1～ 平28.3.31	2	0
米山 博志	工学系研究科	平28.4.1～ 平30.3.31	2	0
山崎 功	芸術地域デザイン学部	平30.4.1～ 令2.3.31	2	0
大島 一里	農学部	令2.4.1～ 令3.3.31	1	0
石丸 幹二	農学部	令3.4.1～ 令4.3.31	1	0

歴代副館長

氏名	所属部局	期間	年	月
高崎 洋三	医学部	平15.10.1～ 平18.3.31	2	6
武田 淳	農学部	平18.4.1～ 平20.3.31	2	0
徳永 蔵	医学部	平20.4.1～ 平22.3.31	2	0
吉田 裕樹	医学部	平22.4.1～ 平24.3.31	2	0
田中恵太郎	医学部	平24.4.1～ 平26.3.31	2	0
熊本 栄一	医学部	平26.4.1～ 平28.3.31	2	0
宮本比呂志	医学部	平28.4.1～ 平30.3.31	2	0
池田 義孝	医学部	平30.4.1～ 令2.3.31	2	0
城戸 瑞穂	医学部	令2.4.1～ 令4.3.31	2	0

図書館の運営体制

附属図書館長・副館長 令和3年4月1日現在

附属図書館長 石丸 幹二(農学部教授)
附属図書館副館長 城戸 瑞穂(医学部教授)

附属図書館運営委員会 令和3年4月1日現在

委員長 石丸 幹二 (附属図書館長)
委員 城戸 瑞穂 (附属図書館副館長)
堀 良彰 (総合情報基盤センター長)
鯉川 雅之 (全学教育機構副機構長)
井上 伸一 (教育学部 教授)
柳 健司 (芸術地域デザイン学部 教授)
上山 和俊 (経済学部 准教授)
村久保 雅孝 (医学部 准教授)
伊藤 幸広 (理工学部 教授)
後藤 文之 (農学部 教授)
唐沢 裕之 (学術研究協力部長)

附属図書館医学分館運営委員会 令和3年4月1日現在

委員長 城戸 瑞穂 (附属図書館副館長)
委員 村久保 雅孝 (医学部 准教授)
藤野 成美 (医学部 教授)
井原 秀之 (医学部 准教授)
江村 正 (医師育成・定着支援センター 特任教授)

館内マップ、各係の紹介

◆総務を担当

図書館運営のための裏方の業務を担当しています。

【業務内容】

- (1) 会議及び諸行事、各委員会運営、公印の管守、文書の接受、発送及び整理保存
- (2) 図書館所管の規程等の制定及び改廃
- (3) 図書館の安全衛生管理及び危機管理
- (4) 予算要求、予算の配分及び管理並びに決算
- (5) 物品の管理及び受領、資産の管理
- (6) 施設の整備、防火及び清掃等役務
- (7) 調査、統計及びその他諸報告の総括

◆図書・雑誌を担当

図書や雑誌が館内に配架されるまでを担当しています。図書・雑誌だけでなく、電子ジャーナルも契約しています。

【業務内容】

- (1) 図書の選択及び収集
- (2) 図書の契約、図書の受入れ
- (3) 図書の除籍、除却及び廃棄等、図書の装備
- (4) 図書のデータベースの作成及び編成、品質管理
- (5) 雑誌の選択及び収集
- (6) 雑誌の契約、雑誌の受入れ
- (7) 雑誌の除籍、除却及び廃棄等
- (8) 雑誌のデータベースの作成及び編成、品質管理
- (9) 雑誌製本
- (10) 電子ジャーナル業務

◆利用サービスを担当

図書館の利用全般を担当しています。カウンターなどで利用者みなさんと接する機会の多いスタッフです。

【業務内容】

- (1) 図書館資料の閲覧及び貸出、配架及び整頓、管理及び保全
- (2) 閲覧室及び書庫の管理
- (3) 図書館及び図書館資料(電子媒体のリソースを含む)の利用案内及び利用指導
- (4) 図書館の広報
- (5) 文献複写、図書館資料の相互利用
- (6) 文献ナビゲーションツールの保守管理
- (7) 図書館システムの開発及び管理運営
- (8) 図書館ネットワークの維持管理
- (9) 図書館情報機器の保守管理及び運用
- (10) 機関りポジトリ、電子図書館システムの管理運営
- (11) 参考業務
- (12) 図書館ホームページの管理運営

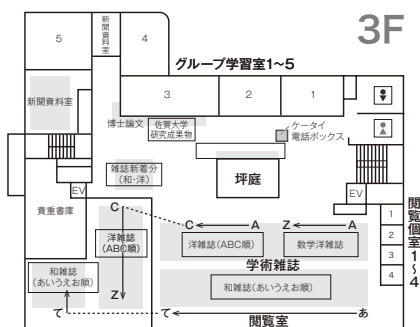
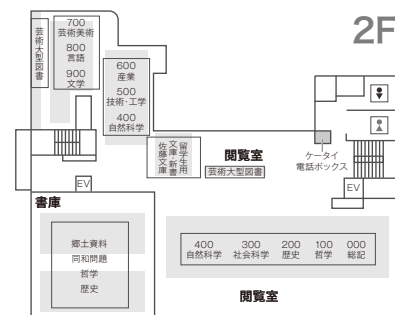
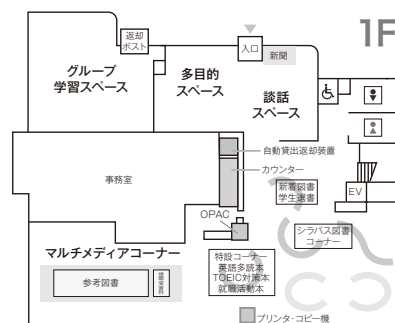
◆医学分館を担当

医学部にある医学分館を担当しています。

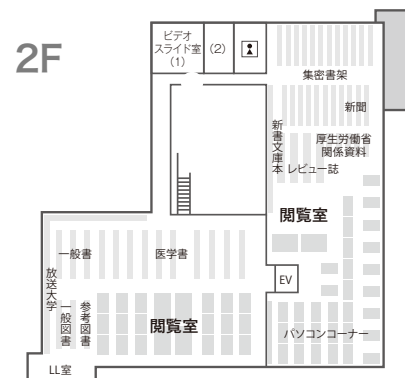
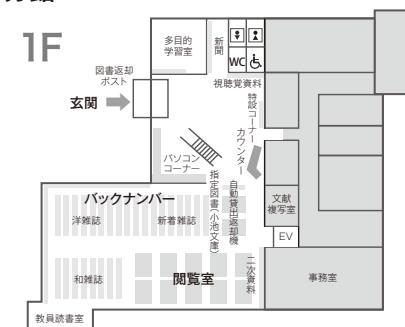
【業務内容】

- (1) 図書館資料の閲覧及び貸出、配架及び整頓、管理及び保全
- (2) 閲覧室及び書庫の管理
- (3) 図書館及び図書館資料の利用案内及び利用指導
- (4) 図書館資料の選択及び収集
- (5) 文献複写、図書館資料の相互利用
- (6) 図書、雑誌のデータベースの作成及び編成
- (7) 複写料金収納
- (8) 参考業務

本館



分館



図書館日誌(行事・会議・研修等)

令和2年

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| 4月 1日 | 図書館情報誌「さらり」12号発行 |
| 4月 16日 | 第50回九州地区国立大学図書館協会総会(熊本大学 書面会議) |
| 5月 13日 | 第71回九州地区大学図書館協議会総会(熊本大学 書面会議) |
| 5月 14日 | 令和2年度第1回附属図書館運営委員会(書面会議) |
| 5月 25日 | 令和2年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会(九州産業大学 書面会議) |
| 6月 5日 | 令和2年度第1回医学分館運営委員会(書面会議) |
| 6月 8日 | 令和2年度第2回附属図書館運営委員会(書面会議) |
| 6月 19日 | 第67回国立大学図書館協会総会(書面会議) |
| 7月 8日 | 令和2年度第3回附属図書館運営委員会(書面会議) |
| 7月 10日 | 令和2年度第4回附属図書館運営委員会(書面会議) |
| 7月 10日 | 令和2年度第2回医学分館運営委員会(書面会議) |
| 7月 16日 | 令和2年度第1回附属図書館選書専門委員会(書面会議) |
| 7月 31日 | 令和2年度第1回附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会(書面会議) |
| 8月 24日 | 令和2年度第3回医学分館運営委員会(書面会議) |
| 8月 29日 | 令和2年度佐賀県大学図書館協議会総会(九州龍谷短期大学 書面会議) |
| 9月 1日 | 令和2年度Web選書ツアー募集開始 |
| 9月 11日 | 令和2年度第1回佐賀県立図書館主催研修会 |
| 10月 1日 | 令和2年度第2回附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会(書面会議) |
| 10月 7日 | 令和2年度第5回附属図書館運営委員会(書面会議) |
| 10月 7日 | 令和2年度第4回医学分館運営委員会(書面会議) |
| 10月 9日 | 令和2年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議(熊本大学 オンライン) |
| 10月 13日 | 令和2年度第2回附属図書館選書専門委員会(書面会議) |
| 10月 19日 | 第68回九州地区医学図書館協議会総会(福岡歯科大学 書面会議) |
| 11月 1日 | 図書館報「ひかり野」44号発行 |
| 11月 9日
～12月 25日 | 読書奨励企画「Go to Readキャンペーン」実施 |
| 11月 13日
～30日 | 貴重書コレクション「大内文庫」展示 |

11月14日	佐賀大学ホームカミングデー図書館施設見学
11月19日	令和2年度第2回佐賀県立図書館主催研修会
11月20日	令和2年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会 (九州大谷短期大学 書面会議)
11月24日	第28回九州地区医学図書館員セミナー (佐賀大学 オンライン)
11月24日 ～12月4日	蔵書点検(本館)
12月7日	蔵書点検(医学分館)
12月7日	令和2年度第3回附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会(書面会議)
12月8日	令和2年度第1回評価専門委員会(書面会議)
12月8日	令和2年度国立大学図書館協会地区助成事業講習会(佐賀大学 オンライン) 図書館における災害対応についてオンライン開催
12月10日	令和2年度第5回医学分館運営委員会(対面)
12月14日	令和2年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務(部・課)長会議 (オンライン)
12月15日	談合等関与行為防止法及び独占禁止法に関する講習会
12月16日	令和2年度第6回附属図書館運営委員会(書面会議)
12月24日	本庄地区総合防災訓練図書館火災

令和3年

1月15日	令和2年度第3回佐賀県立図書館主催研修会
2月1日	令和2年度第6回医学分館運営委員会(書面会議)
2月5日	令和2年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会 (久留米大学 オンライン)
2月9日	令和2年度第7回附属図書館運営委員会(書面会議)
2月18日	令和2年度第4回佐賀県立図書館主催研修会
3月1日	図書館システム更新、ホームページ及び貴重書デジタルアーカイブをリニューアル
3月8日	令和2年度第4回附属図書館電子ジャーナル等検討専門委員会(オンライン)
3月17日	令和2年度第1回附属図書館貴重資料・地域貢献専門委員会(書面会議)
3月18日	令和2年度第7回医学分館運営委員会(書面会議)
3月25日	令和2年度第8回附属図書館運営委員会(書面会議)

貴重書紹介

小城鍋島文庫蔵『旧約全書・新約全書』(1855・1857)

解説

咸豊五年版の「旧約全書」と同七年版の「新約全書」との合本である。

「鎖国」下の日本で西洋語を操ることができる者は稀であり、漢訳洋書が日本人の西洋理解に果たした役割は大きい。キリスト教理解についてもそれは言え、西洋が再接近する幕末には、漢訳聖書の輸入・研究が行われ、文久二年(1862)の上海行幕府使節団に同行した佐賀藩士中牟田倉之助が持ち帰った本の中にも「新約全書」などが含まれている。

平成二十九年(2017)、真宗大谷派の学僧龍温が慶応元年(1865)に購入した『旧約全書・新約全書』が、彼が住職を務めた圓光寺で発見された。アヘン戦争後に中国布教を進めた宣教師たちが共同で作業を行って作られた(代表訳本)聖書が上海、ついで香港で刊行されるのだが、龍温旧蔵本は、香港で咸豊五年に初めて出されたその「旧約全書」と、「新約全書」との革張りの合本であり、世界的に見ても珍しいようだ。倉田明子氏によれば「1860年代以降の代表訳本は、大学図書館等で持っているところはありません」とのことである。また、香港の版元にも当時の物はないようだ。

さて、佐賀大学附属図書館所蔵小城鍋島文庫本は、龍温旧蔵本同様の、咸豊五年の「旧約全書」と、「新約全書」との、革張り合本である。興味深いことに、こちらの「新約全書」は咸豊七年のものになる。装丁は龍温旧蔵本に似るが、同じタイミングで作られたものではなさそうだ。今後、当該期の漢訳聖書とその日本における受容に関する研究が進む中で、同本の位置付けについても検討が進むことを期待している。

[参考]

「北白川 圓光寺」ウェブサイト <https://yama2enkouji.com/>

坂本直子「世界的にも貴重な漢文聖書「代表訳本」の初版、京都の寺で発見 東京外国語大学准教授の倉田明子氏に聞く」『Christian Today Japan』2017年9月30日 <https://www.christiantoday.co.jp/articles/24515/20170930/translation-bible-kyoto.htm>

三ツ松誠編『花守と介次郎』(佐賀大学地域学歴史文化研究センター、2016)

中島一仁「幕末期プロテスタント受洗者の研究」3『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』10(2016)

※ウェブサイトは2021年6月4日に確認。

(地域学歴史文化研究センター講師 三ツ松誠)



写真の出典 前掲『花守と介次郎』19頁